

『緩和ケア』 研修会実施報告

日時 : 令和4年11月28日(月) 8:30~12:30

対象者 : ラダーⅡ~Ⅳを目指す者

参加者数 : 23名

目標 : 一般病棟における緩和ケアの重要性を理解し、がん患者と家族を全人的にとらえ
ケア実践につなげることができる

<講師の紹介>

緩和ケア認定看護師
5階病棟

H 係長



<内容>



昨年に引き続き当院の緩和ケア認定看護師であるH係長に講義をして頂きました。今年度はウィズコロナ時代に則した緩和ケアの方向性をテーマとし、まず初めに、緩和ケアについて6W1Hの視点からお話がありました。緩和ケアは誰に届け、何をするのか、なぜ必要なのか、いつ、どこで、誰が、どのように緩和ケアを行うのかを丁寧に説明して頂きました。緩和ケアの治療、療養、最期の時間を過ごす場所は病院と在宅だけにとどまらず、患者と御家族

の望む所で過ごせるように支援することが、看護師の重要な役割であることを学びました。がん疼痛のアセスメントでは、痛みメカニズムから視覚的、数値的スケール、レスキューの使用など、分かりやすく講義して頂きました。疼痛を緩和するのは薬だけでなく、看護師の笑顔や優しい声かけにより痛みが緩和され、癒されることが多くあることを知り、自らの日々のケアを振り返る機会となりました。いまだに新型コロナウイルス感染症が猛威をふるい、当院でも厳しい面会制限が続いています。終末期の患者が家族と面会する機会を調整することは、看護師の大切な役割です。

今回の学びから、患者や御家族の身体的、精神的変化にいち早く気づき、支援につなげられるようケアを実践していきたいと思っております。